

# 大牟田市立駛馬北小学校

## 1 本校のESDの特徴

本校校区は東側に世界文化遺産「宮原坑」「三池炭鉱専用鉄道敷」があり、鶯替え祭りで知られる駛馬天満宮がある。また、南側には諏訪川が流れている。このように、歴史や文化、自然環境を体験的に学習することができる、学習環境に恵まれた地域である。

本校では、これらの学習環境を生かし、環境や文化、石炭産業に関する歴史を学習対象としたESDを展開している。

特に、平成25年度から総合的な学習の時間の一環として取り組みはじめた「子どもボランティアガイド」<sup>1)</sup>では、活動を通して、子どもの郷土愛や社会貢献の自覚、自尊感情、コミュニケーション能力が高まるなど、プログラムとして大きな成果をあげている。



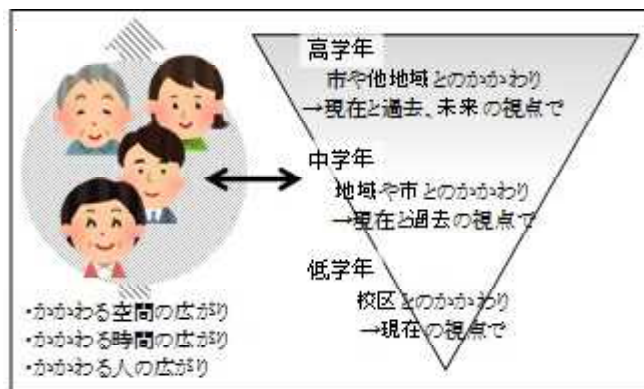
### 1) 子どもボランティアガイド

宮原坑を中心とする世界文化遺産について調べたことを基にガイド原稿をつくり、実際に見学に来られた方にガイドするプログラム。

## 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

本校はユネスコスクールとして「かかわり」を大切にしている。これは、ESDのテーマである「つながり」に繋がるものである。

主に総合的な学習の時間と生活科において学習を展開する(図1)。低学年は身近な校区とそこにかかわる人を現在の視点で学習する。中学年は、地域や大牟田市とそこにかかわる人を現在から過去を考えながら学習する。高学年は、大牟田市や他地域とそこにかかわる人を、過去から現在、そして未来の視点を考えながら学習する。



(図1) 本校の活動と空間、時間、人のかかわりの広がり

このように、学習対象を空間的に広げ、見方や考え方を時間的に広げ、それに伴ってかかわる人々を広げながら学習していく。

例えば、1で挙げた子どもボランティアガイドは、三つの対象が系統的に高まった状態での活動である。宮原坑など大牟田の世界文化遺産と、同じ構成遺産である三菱長崎造船所や八幡製鉄所を比較検討し、宮原坑の価値理解を深めている(空間的な広がり)。また、石炭産業にかかわった人々の思いや願いを知り、石炭の歴史や文化を継承する一員として自分にできることを考え、ガイドに取り組んでいる(時間的な広がり)。さらに、三池炭鉱で働いていた方や歴史を伝える活動に取り組んでいらっしゃる方と意見交換するなど、人とのかかわりを広げている(人の広がり)。

活動の広がりとして、子どもボランティアガイドについて、今後は熊本県荒尾市や佐賀県佐賀市の小学校と、活動の紹介やガイドについての意見交換を計画している。

### 3 特徴的な活動事例

(1) 単元名 「レベルアップ！ボランティアガイド」

(2) ねらい

宮原坑の役割を他県の構成遺産と比較して、「明治日本の産業革命遺産」における価値として新たに捉え直し、宮原坑は明治初期の産業の近代化において製鉄や造船を支えるエネルギー源として工業の発展を支えていたことを理解することができる。

(3) 学習展開

㉑ 導入

ガイド活動に取り組んでいるにもかかわらず、「明治日本の産業革命遺産」についてはよく知らないという事実のずれから、他県の構成遺産を調べて世界文化遺産としての宮原坑の価値を考え直すという課題をつくった。

㉒ 展開前段

まず、パンフレット等を基に「明治日本の産業革命遺産」を構成する他県の世界遺産について概要を調べ、整理した。次に、調べた内容を出し合って分析し、各構成遺産はおよそ「採炭」「製鉄」「造船」にかかわるものであることを明らかにした。そして、日本の工業の近代化をもたらした「採炭」「製鉄」「造船」の関係の中における宮原坑の価値をそれぞれで考え、図化した。更に、それぞれの図を基に、見学者によりよく宮原坑の価値を伝えるための図の在り方について話し合った（写真1）。



（写真1）自分の図を説明する子ども

子どもたちは自分や友だちが作成した図を比較して意味を話し合う中で、宮原坑はエネルギー源として工業の近代化の土台となっていたことを見いだした。

㉓ 展開後段

まず、話し合ったことを基に、役割分担してガイドで用いるパネルを作成した。次に、パネルを用いて実際にガイドしたり見学者などにアドバイスをもらったりしたことを基に、パネルの修正点について話し合った。

子どもたちは、それぞれのパネルを比較したりアドバイスを出し合ったりして、図の色や形、矢印などにもっと意味をもたせることで、より見学者に宮原坑の価値が伝わることを見いだした。そして、グループで修正点を話し合って修正した。

㉔ 終末

修正したパネルを用いて実際にガイドを行った。子どもたちは、見学者などからガイド内容について賞賛を受け、更に今後のガイド活動への意欲を高めていた。

### 4 本年度の成果と課題

○成果

- ・宮原坑の価値を捉え直すために、他県の構成遺産と比較したり（空間）、明治初期の時代背景を含みながら考えさせたり（時間）したことで、宮原坑の価値理解を日本の産業発展という視点で高めることができた。

○課題

- ・他県の構成遺産の理解を深め、総合的に価値を捉えさせなければならない。